

事務事業評価

平成 27 年度

担当課 保険健康課

基本事項	事務事業名	歯科保健事業				整理番号	1106	
	根拠法令等	母子保健法、健康増進法			実施を義務付ける規定	●あり ○なし		
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第 8 章 健康で生きがいある生活を支える	予算科目	4 款 1 項 4 目		●継続 ○新規		
		節 第 4 節 子育て支援の充実	事業区分	市民サービス事業				
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	本市の3歳児のむし歯有病率は全国に比べると高く、また、年齢が上がるにつれて、むし歯の本数が増加する傾向にある。そのため、歯科健診やフッ化物応用事業によるむし歯予防の定着は重要である。				計画期間	始期	平成 18 年度から
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	乳幼児とその保護者に対して、歯の健康管理への意識づけや歯及び口腔内の疾病の早期発見により、歯及び口腔の健康の保持・増進を図る。						
	目的達成のための 具体的手段・方法	各歯科健診(1歳児、1歳6か月児、3歳児、5歳児)、フッ素塗布事業(1歳～3歳児)、フッ化物洗口推進事業(保育所・認定こども園・幼稚園に通う年中児及び年長児)、各教室や相談事業での歯科指導 お口の健康まつり ※フッ化物洗口推進事業:歯なまるスマイルプラン(長崎県歯・口腔の健康づくり推進計画)に定められている。						
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名 称 等 (内 容)		単 位	25 年度	26 年度	27 年度	
		①むし歯がない3歳児の割合(%)		目標 %	80	80	80	
		H25 77%(対象者:401人、むし歯がない者:309人)		実績 %	77	71.8		
H26 71.8%(対象者:418人、むし歯がない者:300人)		達成率 %	96.3	89.8	0.0			
②フッ化物洗口に取り組む保育所・幼稚園の割合 保育所・認定こども園・幼稚園・・・28か所		目標 か所	4	10	17			
H25 実施数:4か所/28か所		実績 か所	4	10				
H26 実施数:10か所/28か所 ※29年度までに全施設(28か所)の実施を目指す。		達成率 %	100.0	100.0	0.0			
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	①フッ素塗布事業の推進		目標 人	1,998	2,096	2,151		
	※目標値は前年度実施値以上を目標 H24 延べ人数 1,998人		実績 人	2,096	2,151			
	②園巡回説明		目標 回	4	10	17		
			実績 回	1	10			
事業費等の推移	年度		23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画
	①直接事業費(千円)		844	779	770	935	2,445	2,445
	財源内訳	国 県 支 出 金				29		
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源	844	779	770	906	2,445	2,445
	②従事職員給与費 b1×b2		2,316	2,110	2,092	2,122	2,603	0
	従事職員数(人) b1		0.32	0.29	0.29	0.29	0.35	0.00
	職員平均人件費 b2		7,236	7,277	7,213	7,317	7,438	
事業費合計 ① + ②		3,160	2,889	2,862	3,057	5,048	2,445	

※平成27年度の予算が増えた理由
平成26年度まで母子保健事業に計上していた歯科医師
会委託料(998千円)を、歯科保健事業に組替えたため。

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている 家庭環境の状況に関わらず、平等に行えるむし歯予防が必要になってきている	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 市が実施するべきであり、他市においても民間への委託はされていない	A
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 健康診査の対象者は母子保健法により定められている。フッ化物洗口の対象者も長崎県が定めている。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない フッ素塗布の延べ人数(継続者)が増えてきている。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある むし歯予防として、歯科健診、フッ素塗布事業、フッ化物洗口推進事業、保護者への指導は実施しているため、これ以上の余地はない	A
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 健診によりむし歯の早期発見、また、フッ素塗布の継続により、むし歯の有病率が減ってきている。	A
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 現行以上の手法はない。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 歯科医師会や保健所と連携し事業を実施できている。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 各歯科健診、フッ素塗布、フッ素洗口の対象者の費用負担はない	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要		
判定評点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			3.00

◎ 総合自己評価（所管部署）		判断理由
評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	
今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) フッ化物洗口に対して、保育所・認定こども園・幼稚園側の理解を図るため、歯科医師会や保健所と連携しながら、園が取り組める体制を整える必要がある。また、取り組む園を増やし、家庭の状況に関わらず、希望する園児が全員できる環境を整えることが課題である。	
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。		

【2次評価】

総合判定	B4見直しのうえで実施 ⇒ その他の見直し
備考	平成18年度からの年齢別歯有病者率の推移をみると事業効果は上がってきており、こうした事業効果に対する保育所・幼稚園側の理解を深めながら、出来るだけ早期に全園実施となるよう取り組んでいただきたい。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input checked="" type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	△ 109 (千円)